

日ごとに暖かくなり、大学病院の桜もほころび始めました。3月は別れの季節で寂しくなることもあります。同時に、共に歩んできた先生方が次なるステージへと羽ばたいていく大切な時期でもありますね。

今月号では、医局の活気ある医局や病棟の様子に加え、若手医師たちのリアルな声、そして送別される先生方のメッセージなどを掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

～2・3月の医局行事報告～

2月 新生児グループのセミナー

＜「筋緊張がなんとなく硬い」から General Movements (GMs) 評価へ：医師とPTで共有する新生児の「動き」の評価＞をテーマに、リハビリテーション部の緒方 友登先生、田中 健太郎先生、菅 秀太郎先生が発表されました。

早産児が退院前に施行される頭部MRIにおいて、点状白質病変 (punctate white matter lesions : PWML) を認めることがあります。PWMLは、古典的な嚢胞性脳室周囲白質軟化症 (PVL) とは異なる画像所見を示し、一定の頻度で認められるものの、その神経発達予後は十分に解明されていません。当院では、出生後早期から極低出生体重児に対し、NICU担当の理学療法士によるリハビリテーション介入が可能であり、早期の予後予測を踏まえた発達評価を行っています。本セミナーでは、General Movements (GMs) 評価を用いた予後予測の考え方の理解を深めました。

3月 八幡地区病院小児科合同カンファレンス

「意識障害」をテーマに、①急性脳症との鑑別を要した脊髄梗塞の1例 (演者：産業医科大学病院 徳永希望)、②非定型欠神発作を生じた重症心身障がい児の1例 (演者：JCHO九州病院 上能巧真)、③当院を受診し入院となった患者で神経疾患を疑うきっかけについて (演者：北九州市立八幡病院 江口啓意) の発表がありました。当日は、活発な討議が行われました。

3月 山口大学大学院医学系研究科法医学講座 高瀬泉教授によるセミナー

「小児科の先生方と共有させて頂きたい (臨床) 法医学的知見～死亡診断 (死体検案) 書の記載方法と子ども虐待で見られる損傷～」をテーマに発表されました。

子どもの死亡診断書等の作成時に留意すべき事項に関して詳細にご説明いただき、診断書の各項目の意味合いをあらためて勉強することができました。また、虐待が疑われる児の損傷の各特徴や所見の記載方法などを教えていただき、法医学に携わる方との連携の重要性を確認できました。

～3月の小児科病棟の様子～

3月 小児科病棟でひな祭りが行われました

保母さんや看護学生さんによる紙芝居や歌などがあり、子どもたちは楽しそうに参加していました。また、栄養部主催でクレープづくりの会も開かれ、子どもたちだけでなく、付き添いのご家族も、思い思いのクレープをたくさん作っていました。入念な事前準備を行っていただいた栄養部の方々に感謝いたします！



～4月開催予定の学会～

学会によっては学生参加枠もありますので、興味のある学生さんはお声かけ下さい★

4月17日-4月19日 第129回日本小児科学会学術集会

(下関市生涯学習プラザ (DREAM SHIP)、海峡メッセ下関)

○藤本 菜生先生 ○山口 定信先生 ○池上 朋末先生 ○守田 弘美先生

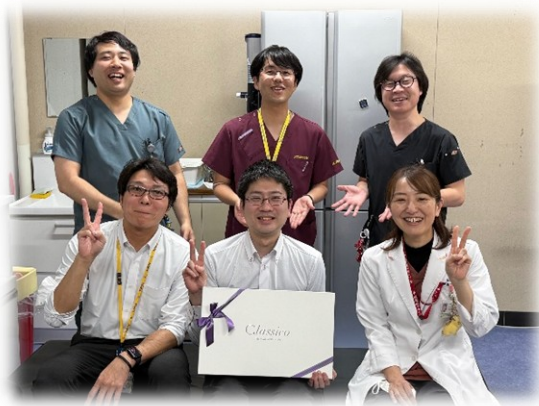
～送別された先生方のメッセージ～

伊藤 琢磨先生

本学2013年卒の伊藤琢磨です。

このたび、2026年3月をもって退局をさせていただくことになりました。思い返せば初期研修修了後の十余年の医局生活で、鹿児島大学への国内留学1年間とその後の北九州総合病院への派遣6か月間以外はずっと産業医科大学で過ごし、産業医2年間の間も大学病院で専門外来を続けました。おかげで希少疾患の臨床や研究をはじめ、厚労科研究班のガイドライン作成に参加するなど得難い経験をたくさん積むことができました。それらの経験と患児たちとの思い出を糧に、次の職場でも頑張っ

て参ります。お世話になりました。産医大小児科医局の今後益々のご発展を心より祈念申し上げます。



山本明美 外来看護師



最上花奈 医局秘書

このたび、雇用期間満了により退職することとなりました。あわただしい日々の中でも、先生方のもとでお仕事できたことに誇りと幸せを感じています。至らぬ点多々あったかと存じますが、先生方や秘書研究室の皆様を支えられて、9年1か月勤めることができましたこと、心より感謝申し上げます。これからも皆さまのご活躍を陰ながら応援しております。本当にありがとうございました。



～医局員からのメッセージ～

小児科修練医1年目の藤本菜生（なお）です。4月に小児科に入局してから、Bチーム→Aチーム→NICUの順番でローテーションしていましたが、いつのまにか1年が過ぎてしまっていたようで非常に驚いています。先日、類似症例のおさらいのために最初2～3ヶ月に自分が書いていたサマリを見返していたのですが、あまりの拙さに、こんなものを恥ずかしげもなく提出していたなんて…、と顔が赤くなりました。

あっという間の1年間でしたが、医局の先生方の温かい指導のおかげで、大きく成長できた気がします。思えば初期研修を終えた直後の4月に自分のPHSが鳴った時に「小児科の藤本です」だなんて名乗るのが少し恥ずかしかったのを覚えています。いつからかそんな気恥ずかしさを感じることなく名乗れるようになったところに、「藤本菜生という小児科医」が次第に形作られていくのを感じます。

小児科医としての初めての1年を産業医大病院で過ごせてとても幸せでした。来年度は山口大学で武者修行をさせていただきます。ご指導いただいた先生方の顔に泥を塗らぬよう、精一杯働きます！また北九州に帰ってきた際はご指導ご鞭撻いただければ幸いです！

→小児科医の神器たる血管スケスケライト、自前のものを買って飾ってみるとなんだか少しかだけ穿刺の成功率が上がる気がします。



小児科通信に関してご意見や感想があれば守田 (h-rita@med.uoeh-u.ac.jp) までご連絡ください。

～次号もお楽しみに～